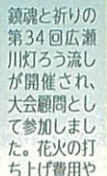
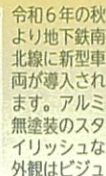




▲ 広瀬川灯ろう流し ~折り~
ありませんでしたが、川面に浮かぶ美しい灯ろう流しと初の試みであるスカイランタンで、幻想的な広瀬川灯ろう流しとなりました。



▲ 地下鉄南北線 新型車両
車内は、乗車口とホーム床の隙間を約2cmまで解消しバリアフリー化が推進されています。



▲ 地域を愛する心の醸成
地域で働くお店を訪ねる生活科の授業の一環で、南材木町小学校の児童が当事務所に来所してくれました！



▲ 心をつなぐ、若林シーサイドマラソン
気持ちのいい快晴のもと、年内最後のマラソン大会へ！



▲ 心をつなぐ、若林シーサイドマラソン
気持ちのいい快晴のもと、年内最後のマラソン大会へ！

猪又 隆広
いのまた たかひろ

スタート
猪又 たかひろ

仙台市政報告書 vol.015

第15号
発行：猪又隆広事務所
〒984-0816
仙台市若林区河原町1丁目1-30
TEL.022-216-3351
FAX.022-216-3352
https://inotaka.info
takahiroinotaka0924@gmail.com

新たなスタート！2期目もしっかりと現地現場でいただいた声を反映します！



仙台市議会議員 猪又 隆広

御挨拶

令和6年、本年もどうぞよろしくお願いたします。
昨年には私にとって仙台市議会議員選挙という試練の年でありました。市民の皆様から大きなお支えをいただき、再び市政の現場で働くことができることにより感謝を申し上げます。

現地現場主義！地域の諸課題に全力投球！

八軒中学校・七郷堀沿い一方通行（新弓ノ町～八軒小路～南染師町） 進行中
道路改良工事3か年で実施決定

2023年度～25年度までの3か年で実施します。経年劣化とともに八軒中学校の校庭改良工事により、ダンプの出入りがあり、工事後も大きなひび割れ、振動がすごいと地域からご要望をいただいております。



宮城野萩大通り イエローハット前歩道 完了

以前、道路の轍(わだち)につまずき、顔から転倒し全治4か月のケガを負った方を含め、地域の方数名からいただいた撤除のための舗装整備。若林区道路課の皆様にもその問題の大きさを認識いただき優先的に対応頂きました。



若林幼稚園・小学校入口の安全対策 完了

地域のスポーツ団体・学校からご要望を頂いていた自転車の安全対策。若林小学校側から大通りに出る際に出口が坂になっているため、車に乗っていると歩行者や自転車が見えづらく、かなり慎重に走らねばならないと事故が起きかねない心配の声を聞いておりました。



他にも地域の声をカタチにするため、順次取り組み中です！

ボランティアでの剪定を行っていただいています！

私が顧問の任を務めている宮城県造園建設業協会若林分会の皆様は、毎年2館ずつ若林区内の市民センターの剪定ボランティアに取り組んでいただいております(2023年は六郷・七郷市民センター)。



街頭活動継続中です！若い力で頑張ります！

仙台市議会議員選挙前から多くのお声をいただいたのが街頭での活動です。しっかりと継続をしながら、市民の皆様から直接声をいただく場をこれからも大切にしていきたいと思っております。



猪又 たかひろ プロフィール
昭和58年9月24日、栗原市生まれ。
仙台市立若林小学校・八軒中学校を経て、仙台高校(吹奏楽部 部長)、東北学院大学卒業(高校社会科教員免許取得)。12年間の衆議院議員秘書(政策担当秘書)を経て、現在、仙台市議会議員(2期目)。
趣味は、マラソンと音楽。

- 【活動】
・広瀬川灯ろう流し実行委員会 顧問
・(公社)仙台青年会議所 OB会会員
・宮城掃除に学ぶ会 世話人
・保護司(若林区保護司会在籍)
・交通指導隊(増町地区分隊長)
・仙台市地域防災リーダー(南材地区)
・南材小学校 PTA 監事
・南材おやじ倶楽部 事務局長
・八軒中学校同窓会 監事
・仙台高校同窓会 副会長
・デジタル庁デジタル推進委員
・子どもまんが応援サポーター

情報発信中です！
選挙ドットコム
猪又たかひろページ

市政あれこれ：仙台市からのご案内 (1月26日現在)

書かない窓口が区役所で始まっています！

■ 窓口サービスの拡充
窓口のサービスの充実により、オンライン手続の拡充の取組と併せ、市民と市役所との接点の変革を実現します。特に、必要な手続の種類を軽減する、時間が長くなりしがちな「転入」手続を中心に、市民負担の軽減を図ります。

● 「書かない窓口」システム
マイナンバーカードをかざすと、申請に必要な情報が申請書に自動で転記されます。これにより氏名や住所を何度も手書きする手間がなくなります。

仙台市公式LINEを活用し、必要な情報を！

■ 羽生結弦さん × 仙台市LINE公式アカウント
市政に関するさまざまな情報をLINEで発信します。受信設定で受け取りたい情報を選べるほか、3つのメニューから知りたい情報に簡単にアクセスできます。

LINEでお友達追加
右の二次元コードか、LINE アプリのホームの検索バーで、ID[@sendai-city]または「仙台市」と検索して追加してください。

「令和6年能登半島地震災害義援金」について
被害に遭われた方々への義援金を募集するため、市役所本庁舎や各区役所などに募金箱を設置しています。

仙台市議会 令和5年度 第3回定例会 一般質問

①【学校トイレの洋式化の現状と目標設定】

▶洋式化率の状況と達成時期、目標値の再設定

Q: 学校施設の課題のなかで、多くの子どもたちや保護者から改善の要望が強かったのが、学校トイレの洋式化である。本市でも増設工事や大規模改修時の際や系統改修を行っていることは承知している。市有施設全体における洋式トイレの割合を、平成28年度から概ね10年間を目途に50%以上とすることを目標としているが、学校トイレの洋式化率50%に達していない学校はどの程度あるのか。また、いつまでに達成するのか。文科省の「公立学校施設のトイレの状況」によると、政令市で本市の位置づけは37.5%、最下位の堺市に続きワースト2である。トップは横浜市の82.8%である。そもそも本市の目標値である洋式化50%の目標が低すぎる。掲げる目標を改め、和式も一定程度残しつつ、限りなく100%に近づけるよう目標値を再設定すべきと考える。



(説明: 令和5年9月21日(TBCニュース))

A: トイレの洋式化が50%に達していない学校は、令和4年度末現在、182校中59校あり、青葉区が12校、宮城野区が12校、若林区が7校、太白区が17校、泉区が11校となっている。校舎の大規模改修や系統ごとの改修などで計画的に洋式化を進めてきた。現行の年次計画に基づく、令和9年度末に全ての市立小中学校の洋式化率が50%を超える見込みとなっている。児童生徒が長い時間を過ごす学校のトイレの環境整備は、健康、衛生、学習の面などからも重要と認識している。今後、整備の更なるスピードアップに努めるとともに、洋式化の割合についても改めて検討を行い、皆様にお知らせしながら、児童生徒の学びの環境の充実を図ってまいりたい。(教育長)

③【本市のひきこもり支援とグランドデザイン】

▶ひきこもり地域支援センターの拡充と市長の訪問

Q: 若林区遠見塚にある本市のひきこもり地域支援センターでは相談件数が増え、職員の不足によるマンパワー不足が生じている。センターは居場所支援の2人を除けば、現在3人体制で相談にあっており、1人はセンターに2人は現場に出ています。とても苦勞している。調査によって実態が把握でき、支援に繋がれることは良いことであるが、相談件数が増えることが予想される。見合った人員の拡充、支援センターへの財政支援、場所の確保等しっかりと力を入れていくべきと考える。また、市長には、ひきこもり地域支援センターを直接訪問し、現場の声を聞いていただき、政令市で一番のひきこもりに優しい都市を目指すべきと考える。いかがか。

A: ひきこもり地域支援センターは、本市におけるひきこもり支援の中核を担う機関であり、丁寧な相談対応を行うため、国基準を上回る人員を配置するなど、支援体制の充実を努めてきた。近年では、相談者の年代が幅広くなるにつれ、相談内容が多様化し、アウトリーチによる対応や、ニーズに応じた様々な社会資源との連携を要するケースも増えてきている。さらなる増員や拡充につきましては、現在行っている調査結果を踏まえながら、外部有識者の意見も参考に、その必要性等を検討してまいりたい。また、私自身も機会を捉えて、ご本人やご家族、また実際に支援にあたっておられる方々のお声を直接伺い、今後の取り組みに活かしてまいりたい。(市長)

②【行政のデジタル化の見える化について】

▶「デジタル改善目安箱」の設置

Q: 本市のライバル都市でもある福岡市では、令和5年1月に「デジタル改善目安箱」を福岡市のHP上に設置した。これは、市民や事業者の皆様が不便に感じているアナログ的な手続きや慣行等について市民から情報を受け、改善につなげるためのものである。こういった市民に見える形で見直しは大変素晴らしい取り組みだと考える。福岡市では今年の1月に設置し、3月までの2か月間で290件の情報が寄せられ、そのうち51件の見直しを決定したとのことである。こういったデジタルに関する市民からの声を直接聞くためにも、「デジタル改善目安箱」の取り組みを本市でも実施すべきと提案する。いかがか。

A: 自治体におけるDX推進に際しましては、市民の皆様のご理解に十分配慮をしながら推進することが重要である。ご提案のあった「デジタル改善目安箱」のような手法は、市民の皆様からの要望等をお伺いするうえで有用なものと認識しており、今後、次期DX推進計画の策定にあわせ、具体的な検討を進めてまいりたい。(まちづくり政策局長)

実現しました!

令和6年4月よりデジタル改善目安箱がスタートします。皆様の声をお寄せください。

「仙台デジタル推進協議会」のメンバー

令和6年4月よりデジタル改善目安箱がスタートします。皆様の声をお寄せください。

仙台市では、市民や事業者の皆様が不便に感じているアナログ的な手続きや慣行等について、市民から情報を受け、改善につなげるための「デジタル改善目安箱」を設置しました。市民からの声を直接聞くためにも、この取り組みを本市でも実施すべきと提案する。いかがか。

仙台市では、市民や事業者の皆様が不便に感じているアナログ的な手続きや慣行等について、市民から情報を受け、改善につなげるための「デジタル改善目安箱」を設置しました。市民からの声を直接聞くためにも、この取り組みを本市でも実施すべきと提案する。いかがか。

仙台市では、市民や事業者の皆様が不便に感じているアナログ的な手続きや慣行等について、市民から情報を受け、改善につなげるための「デジタル改善目安箱」を設置しました。市民からの声を直接聞くためにも、この取り組みを本市でも実施すべきと提案する。いかがか。

④【個人で所有している上水道管の権利の在り方】

▶個人所有・管理している水道管の総距離、市への移管

Q: 六郷地区で住宅事業者の方から相談があった。個人で所有している水道管が多く存在しており、住宅の開発に大きな弊害となっているとのことであった。個人で所有する水道管が多く、中には所有者不明の水道管となっている現状がある。本市の個人が管理する水道管の総距離はどのくらいあると認識しているのか。今般の相談を受け、私は私道から仙台市道に編入する際、道路や土地、下水は所有権を仙台市に移管しているのだから、水道管に関しても、個人所有のものは本市水道局に所有権を移管するよう促すべきと考える。いかがか。

A: 本市水道において個人が所有・管理している共用管の総延長は、概ね160kmと把握している。個人所有の共用管につきましては、様々なご事情を抱えているものも多く、一律に水道局への移管を進めることは困難であるが、たとえば当該管が埋設された私道が仙台市道に編入されるといった場合、道路関係部署の協力を得ながら、所有者の皆様に必要な情報提供を行い、本市への移管を促してまいりたい。(水道事業管理者)

実現しました!

私道から仙台市道への検討をされていらっしゃる方へ今後ご案内があります。埋設されている管を市に寄付してもらい、仙台市道の埋設管は仙台市に管理運営を促す取り組みを今後も求めています。

仙台市議会 令和5年度 第4回定例会 一般質問

①【仙台市内に初の道の駅を】

▶相談状況と経緯、道の駅指定に向けた考え

Q: 令和5年8月現在、全国の道の駅登録数は1,209駅、内、宮城県内には18カ所の道の駅がある。道の駅の制度がスタートしてから30周年の節目を迎えますが、残念ながら本市には一つもない。これまで設置に至らなかった経緯を伺う。先日、所有する既存施設を利用して道の駅の指定を受けることはできないかと相談を受けた。すぐさま道の駅を所管する仙台河川国道事務所へ伺ったが、設置自治体である仙台市の協力は不可欠とのことであった。令和4年5月には道の駅登録・案内要綱の当面の運用方針が改定され、これまで自治体や準ずる公益法人のみが設置者だったが、今後民間も設置者となることのできるようになった。民間事業者から相談があった場合には、本市でも積極的な関与を行い、誰しもが楽しめる本市第1号の道の駅の指定に向けて舵を切るべきと考える。いかがか。

A: これまで道の駅設置に関して、複数の相談や問い合わせがあり、土地利用の制限などの課題があった設置には至らなかった。今後、運用方針の改定を踏まえた民間からの設置の相談も想定されることから、地域との連携や周辺交通への影響などの視点も考慮しながら検討していくことが必要と考えている。さらに、道の駅の実現に向けては、地域の方々の熱意の高まりとか、それらからそれを継続する力がなによりも重要であるということを考えており、本市としてはそういった機運の広がりを期待しているところでもある。今後、民間からのご相談も想定されることから、まずは事業者の意見を十分お伺いして、その実現に向けて色々調整を図ってまいりたい。(副市長、建設局長)

②【卸町エリアのまちづくりの方向性】

▶現在の進捗状況と次世代を担う方々との情報交換の場づくり

Q: 卸町地区は昭和40年代の土地区画整理事業により整備され、本市の流通の中核を担ってきたが、時代の変化とともに新たな業態への転換など、卸売業を取り巻く環境が大きく変化してきた。周辺の宅地化が進み、平成27年には地下鉄東西線の開業、せんだい演劇工房10-BOXや能-BOXの文化施設、仙台の台所である仙台中央卸売市場の再整備方針など卸町全体が賑わいのある複合市街地へと転換しようとしている。先日、卸町地区の30～40代の青年経済人の皆様と今後の卸町地区に関しての勉強会を開催した。今回の勉強会を通じ、卸町地区の更なる魅力創出のために次代の経営者たちと積極的に意見交換ができ、その声が反映できる場が必要だと強く感じた。行政としての継続的な場づくりを求める。



卸町青年経営研究会と仙台市の勉強会

A: 卸町エリアについては土地利用方針に基づき、土地利用規制の緩和を行い、駅の利用性を生かした商業、業務、居住などの機能が複合した市街地への転換を進めているところである。今後まちづくりを進めるにあたっては、次世代を担う方々のご意見は大変貴重なものであると認識している。先日行った勉強会を契機に、今後においても、情報提供や意見交換の場を積極的に設けるなど、次世代を担う方々との関係性を構築するとともに、まちづくり協議会と連携を図りながら、卸町エリアのまちづくりに鋭意取り組んでまいりたい。(都市整備局長)

③【本市のDX人材活用】

▶本市職員のDX人材の確保・育成状況、目標設定、外部人材の活用

Q: 本市人口推計でも予測されているとおり、令和10年をピークに本市でも人口減少が進む中、優秀な人材、とりわけDX人材の確保・育成に関しては、喫緊の課題である。本市15,000人の仙台市職員の中でDX人材はどの程度確保・育成できているのか。北九州市では、協定を結ぶIT企業の協力を得て、研修プログラムを実施し、情報処理の国家資格である「ITパスポート」レベルを目指し、庁内の約400の課から2人ずつ人員を募り、毎年800人が研修を受け、3年間で2,400人のDX人材を育成すると表明した。本市としてもDX人材の育成をどの程度、いつまでに達成するのかしっかりと目標を示す必要があると考える。いかがか。

A: DX人材の育成に関する目標としては、現在、デジタル研修への参加者数を拡大することを設定しており、令和4年度実績では、3年度との比較で受講者が554名増、延べ9,668名となった。この間、行政手続きオンライン化やRPAなども進んでおり、デジタル技術に関する職員の知識・スキル、業務利用への意識は着実に向上しているものと認識している。現在、資格取得の状況について把握はしていないが、次期計画において、人材の確保・育成の重要性を踏まえ、DX人材に係る適切な目標の設定、そしてまた進捗管理、さらなる外部人材の活用について、鋭意検討してまいりたい。(まちづくり政策局長)

【一般質問の様子はこちらからご覧いただけます】

【第4回定例会：一般質問】

- Q. 本市のDX人材活用
- Q. 卸町エリアのまちづくりの方向性
- Q. 仙台市内に初の道の駅の実現性

【第3回定例会：一般質問】

- Q. 仙台市議選の過去最低投票率と具体の向上策
- Q. 行政のデジタル化の今後
- Q. 本市のひきこもり支援とグランドデザイン
- Q. 学校トイレの洋式化の現状と目標設定
- Q. 個人で所有している上水道管の権利の在り方



仙台市議会
インターネット
議会中継
ページへ

常任委員会開催!

現在、所屬する経済環境委員会(経済局・文化観光局・環境局・ガス局所管)にて副委員長に任を預かっております。私も委員長として、委員会での進行役を務めました。経済環境委員会では、宿泊税や新たな経済指針(仙台経済COMPASS)、農業支援、文化芸術支援、今泉清掃工場の建て替え、炭素税、安定的なガス供給など幅広い分野で議論がなされています。



委員長 櫻岡 聡

猪又たかひろの議会での質問の様子をいつでも確認できます。詳細は「仙台市議会インターネット議会中継」で検索ください!